

次号予告

特集 地域開発の大型プロジェクト

青函トンネル開通と新生函館の都市づくり
……………斎藤茂樹(函館市)

東京湾岸地区情報計画……………佐野紳也(三菱総研)

21世紀の国際交流拠点をめざして
「湘南国際村」計画……………浅沼知行(神奈川県)

21世紀長寿社会の実現にむけて
「あいち健康の森」構想
……………山本 勝(名古屋工大)

関西文化学術研究都市
……………寺本光雄(関西情報センター)

国際マクロ・エンジニアリング
プロジェクトについて
……………平木俊一(日本興業銀行)

連載講座
証券投資技法の基礎と概要(5)
……………石井吉文(ニッセイ基礎研究所)

日本オペレーションズ・リサーチ誌編集委員会

委員長	山田 善靖	東京理科大学
副委員長	日下 泰夫	東京都立商科短期大学
委員	相沢りえ子	㈱構造計画研究所
	稲場日出男	工学院大学
	片山 隆仁	防衛庁
	川野幸三郎	東燃石油化学㈱
	城川 俊一	関東学園大学
	木嶋 恭一	東京工業大学
	新村 秀一	住商コンピューターサー ビス㈱
	丹羽 清	㈱日立製作所
	平林 隆一	東京理科大学
	町原 文明	日本電信電話㈱
	松本 康男	㈱三和総合研究所
	矢部 博	東京理科大学

●編集後記

「コミュニケーションの促進」と、「アイデンティティの確立」のバランスをとるのは、大変むずかしいようです。

たとえば、国家間であれば、日本に対する海外からの規制緩和と国内産業保護とのバランスであり、企業間であれば、情報産業における仕様統一の動きと、各企業独自製品開発とのバランスであり、さらに個人間であれば、サラリーマンの会社付き合い圧力と家庭生活指向とのバランスなど、いたるところに問題を見出せます。

個が確立していなければ、意味あるコミュニケーション成り立たないという言い方もあるでしょうし、あるいは、コミュニケーションする中で、アイデンティティが確立するというのかもしれませんが、これには、おそらく一般的な処方せんというものがなく、各々の問題の状況

に応じて、解決へのアプローチが異なるのかもしれませんが。

本特集は、このようなむずかしい課題をはらんでいるコミュニケーションに焦点を当てています。お読みいただいていたかがでしてでしょうか。

さらに、議論を深め、次なるステップに進むためにも、読者からのフィードバックと、さまざまな個性をもった読者間でのコミュニケーションが特に大切だと思われまふ。そして、実は、本誌の役割は、表紙の英文タイトルにもあるように、このようなコミュニケーションを促進することにあつたのです。本誌を、どうか、コミュニケーションを活性化する触媒としてご活用ください。

(丹羽 清)

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

昭和63年11月号 第33巻 第11号 通巻 335号

代表者 森村 英典

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) 〒 113

編集人 山田 善靖

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-4-2 〒 151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 850円(郵送料含) 年間予約購読料 9600円(郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(546-1337)、日経弘報社(563-2241)へ